

がんばろう 南三陸町 復興第 20 号

南三陸マイタウン情報

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069
後援:
志津川広報センター



伊里前「福興市」開催

田東山つつじまつりを応援

5 月 26 日 (日) 田東山つつじまつりと題し、第 26 回の「福興市」が伊里前の福幸商店街を会場に、初めての試みとして開催された。

志津川地区のさんさん商店街を中心として開催されていた福興市が、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンにあたり、「笑顔咲くたび伊達な旅」として、田東山の山頂 360 度の大パノラマと、約 5 万本の山つつじが咲く「つつじまつり」と同時開催をした。今年は少し遅咲きの状況

の中で、伊里前福幸商店街前のスペースを「福興市」イベント会場にと整地して来場者・観光客を迎えた。

イベントでは福興第 3 弾として「春の銀トロ巻き大会」があり、南三陸特産のブランド銀鮭で 30m ののり巻きに挑戦した。ステージプログラムでは「Miki Baby (南三陸町) & 大磯ロッカーズ (湘南茅ヶ崎) レゲエライブ」に、老いも若きもロックのリズムに総立ちで盛り上がった。同時に「福まき大会」も開催された。



元気なお店の紹介では、南三陸町から 19 店、県内や遠くは宮崎県高原町など、16 店が南三陸町の「福興市」を支え応援している。その他にも「全国ぼうさい商店ネットワーク」で全国の商店が支援している。



子供たちの元気な躍動

志小運動会 仮設の皆さんと一緒に

5 月 18 日の春の陽光の下で、志津川小学校の大運動会が開催された。校庭には多くの被災者の仮設住宅が並び、まだまだ復旧・復興への姿が見えない中で、多くの学区民が仮設から、子供たちの活躍を応援に集まった。

志津川小学校の児童が赤と白に別れての入場からはじまった。開会宣言に引き続き「聖火入場」では、校舎向かいの一本松に聖火の点灯を行うなど、オリンピック顔負けの儀式に驚く。

開会の挨拶では、加藤敬一校長が「天を見上げて下さい。皆さんの気持ちが天に通じました。」と、雲一つない快晴の空を皆で見上げた。仮設の皆さんには、「799 日目となりました。子供たちの行動力を育む取り組みが、地域の復旧復興になれば」と話した。祝辞では PTA 会長が、「志津川小学校の子供たちはこんなに元気ですよ、頑張りましょう」と多くの支援に対し、「この元気を伝えて下さい」と語った。



2 年生「あーいドン」

プログラムの 1 番は 5 年生徒競走で、グランド 1 周を最後まで力いっぱい走る姿に、応援に駆け付けた観客から大きな声援が飛んでいた。3 番目の「来年は 1 年生」では、来賓も参加し、スタートして来賓から入学用品をバック



帽子を守れ!

いっぱいもらい、それをもって父母の所までのゴール、転んでも泣く子は 1 人もいなかった。5 番目の 5・6 年の「旭ヶ浦の戦い」は騎馬戦で、その元気な闘志溢れる戦いに「それ今だ」「早く」など、赤白の戦いに場外でも負けない応援合戦となった。

1 年生の徒競走はグランドの半周で、一人一人が名前を呼ばれ、元気な「ハイ」の返事でスタート。ゴールでは、手を広げ競り抜けていた。その後、校長先生から順番に賞品が手渡され、一人づつにねぎらいの「おめでとう」の言葉が送られていた。

児童会スローガンは「何事にも進んでチャレンジできる志小っ子」で、それにふさわしい子供たちの姿が運動会で見られた。今年の優勝は「白組」とあとで父兄から聞いた。



赤組白組ガンバレ



町民みなさんが応援



計仙麻大嶋神社 臨時祭典

5 月 18 日 (土) 払川ダム完成記念として、計仙麻大嶋神社臨時祭典が伊里前福幸商店街となりに、臨時社務所を設置し開催された。地域の氏子、地区民の方々がお札をいただきに社務所を訪れていた。

30 人にも及ぶ御神輿のかつぎ手、子供たちの山車がつづき「獅子舞い」の獅子と舞い手。



臨時社務所

役員・氏子・宮司と行列をつくり、伊里前福幸商店街での「しろうおまつり」を祝い、この日完成の「払川ダム」「祝賀会」に華を添えた。御神輿渡御は、商店街から石泉・桧の口の集会所で地区民に披露され、計仙麻大嶋神社が奉られている田東山に登り、上沢前のルートでこの日の臨時祭典を終えた。



祝賀会
子供山車



早期復興祈願

福幸商店街の行列

や 14 店の出店ブースで、南三陸町の早期復旧復興を願い、また、歌津地区でのこの日の祝いや祭りを盛り上げた。



伊里前福幸商店街

歌津しろうおまつり

5 月 19 日 (日) 南三陸町歌津の伊里前福幸商店街で「しろうおまつり」が開催された。しろうおが遡上する伊里前川は、この震災大津波により、しろうお漁の漁場となる「ザワ」や施設が跡形もなく流失した。その中で、地元の観光資源の復活に町民の活動が稔り、「伊里前しろうおまつり」の再開となった。

この再開への感謝の気持ちを込めて、特別イベ



ント「しろうおどり食い体験」や「しろうおお吸い物 (500 食)」「しろうおすくい体験 (子供限定)」など、無料で来場者に振る舞われた。

また、「田東山ツツジ探訪と伊里前しろうおまつりの旅」と題され、伊里前福幸商店街から田東山まで「ワンコイン (500 円) シャトルバス」が運行された。運行は 18 日から 6 月 1 日までの土日の 1 日 6 往復で、利用者には記念のキーホルダーと、伊里前福幸商店街で利用できる 300 円のお買物券がプレゼントされ、新しい歌津観光の取り組みで、多くの来場者を迎えていた。今後は「払川ダム完成」もあり、益々の観光客の誘致を期待している。

剣道をとおしての出会い！



歌津剣道協会 支援に感謝の稽古会

歌津地区に被災直後に大阪を中心とする、「剣道ブログ」繋がりの仲間の会の方々が、剣道手ぬぐい・竹刀袋などの物資や義援金の支援に、直接にと南三陸町歌津を訪れ手渡し交流が生まれた。

今度は剣道の交流を通し、歌津の復興を支援したいと訪れた。歌津剣道協会主催で本吉郡剣道連盟が後援し、100名近い剣道指導者・少年剣士が集まり合同練習会となった。

交流稽古会の歓迎の言葉では、本吉郡連の小山副会長が、「みなさんの支援に対し長い交流ができれば」と話し、それに答えて黒羽さんが「剣道をとおして仲間づくりをしましょう」と、歌津剣道協力の交流稽古会開催に感謝を述べてくれた。記念写真の撮影の最中も、互いの剣道を会しての出会いに「我々が元気をいただいた」と語ってくれた。夜には戸倉「ほったてごや」さんで親睦会も開かれ、剣道談義に華を咲かせた。



剣道ブログ仲間の皆さん達

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成25年(2013年)

3月の出来事

～ 地元報道より ～

◆JR中吊りポスターアイデア

南三陸町観光協会が募集した「JR中吊りポスターアイデア大募集」で、志津川小学校2年の佐藤倫さんの作品が最優秀賞に選ばれた。佐藤さんの作品をもとに作られたポスターは、3月1日から1カ月間JR東日本仙台支社管内の全車両に掲示された。

◆入賞の中学生を表彰

南三陸消防署で3月1日、林野火災防火標語の表彰式が行われ、入賞した中学生に賞状などが贈られた。作品は登山道入り口に設置する看板に掲示したり、スクールバスの車体に掲示したりして林野火災の防止を呼び掛ける。

◆ひころの里 シルクフェスタ

南三陸町ひころの里で3月2日、シルクフラワーフェスタが始まった。町内を始め、気仙沼、登米、栗原などの愛好家が出品。繭で作られた本物そっくりの盆栽や鉢花などがずらりと並び、来場者の目を楽しませた。

◆慰霊碑建立を要望

南三陸町の有志らが3月4日、震災で犠牲になった町民のために慰霊碑の建立を願い、要望書と町民750人から集めた署名を提出した。

◆災害ボランティア10万人超える

南三陸町災害ボランティアセンターが受け付けたボランティアの数が、10万人を超えた。一昨年3月26日から今年2月末までに受け付けたボランティア数は10万1396人。センター立ち上げから約2年で町の人口の約7割ものボランティアが訪れた。支援のニーズはまだまだあり、町社協は今後もセンターを継続して積極的に受け入れていく考えだ。

◆ヘルメットの着用を

南三陸署はこのほど、志津川高校を自転車ヘルメット着用推進モデル校に指定した。この日は約50人が自転車通学している同校で指定書の交付式が行われ、遠藤署長が2年生の代表生徒にヘルメットを贈呈し、高校には指定書を交付した。

◆年長組が看板作り

南三陸町保育所の年長組の子供たちが、特産のタコの形をした木片を使って、保育所の看板作りを進めている。木片は、ヒノキで作られており、100個をパズルのように順番に並べると「しづがわほいくしょ」の文字になる。木片は乾燥させた後、看板に貼り付けられ、修了式で保護者らにお披露目された。

◆がれきと絵のオブジェ

南三陸町で発生したがれきと、子供たちが描いた絵を使って華道家の前野博紀さんが制作したオブジェ「旅するクジラ」が6日、町に寄付された。この日は町に震災支援などを行っているANA主催の寄贈式がホテル観洋で行われ、絵を描いた子供たち約20人も参加。高さ3メートルほどの作品を鑑賞した。

◆東日本大震災から2年 各地で追悼式

震災から2年を迎えた3月11日、南三陸町の追悼式はベイサイドアリーナに国、県、町の関係者、遺族ら合せて約1500人が参列して行われた。国主催の追悼式の中継映像と共に参列者が黙とうし、安倍首相、天皇陛下のお言葉に続き町長が式辞を述べた。南米チリのガブリエラ校の生徒などからのメッセージもスクリーンで放映され、志津川高の生徒たちが震災時の体験をもとにして作った歌が披露された。この後、参列者が祭壇に足を運び花を手向けて静かに手を合わせていた。

◆復興支援拠点に

南三陸町入谷鏡石地内に研修・宿泊施設「南三陸まなびの里 いりやど」が建設された。震災直後、町に支援に入った大正大学を入谷地区が受け入れたことが建設のきっかけになり、大学生の学びの場や復興支援活動の拠点となるほか、ボランティアや一般客も受け入れる。

◆感謝伝える紙粘土作り

南三陸町の子供たちが3月17日、家族などに感謝の思いを伝える紙粘土づくりを楽しんだ。小学生ら20人が参加し、色とりどりの紙粘土を使ってウサギや雪だるま、ネコなど思い思いの作品を仕上げていた。

◆中学生が写真店

南三陸町立3中学校の3年生96人が撮影した写真の展示会がベイサイドアリーナで開かれた。作品は魚市場での水揚げ風景や被災した校舎、友人の笑顔など2000点以上。中学生たちが、町が復興に向かっていく様子や人々の息づかい、震災の爪痕などをそれぞれの視点で捉えたものとなっている。

◆南三陸町でbjリーグ

プロバスケットボール「bjリーグ」の仙台89ERSー大阪エヴェッサ戦が3月23日、南三陸町ベイサイドアリーナで行われた。町内でのプロバスケット公式戦は初めてで、住民約千人が無料招待され、迫力あるプレーに酔いしれた。

◆入谷デイサービスセンター完成

南三陸町社会福祉協議会が、入谷新中の町地内に建設を進めていた入谷デイサービスセンターが完成し、3月24日に落成式が行われた。施設は鉄骨平屋造りで、訓練室や脳トレ室、食事・談話室などが設けられ、定員は9人となっている。

◆消防団に動力ポンプ

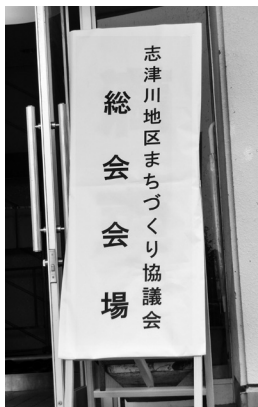
南三陸町は3月27日、町消防団に対して小型動力ポンプ付積載車1台と同ポンプ11台を交付した。経年劣化していたため県の交付金事業約2000万円で整備された。

志津川地区まちづくり協議会総会

5月19日(日)平成25年度「志津川地区まちづくり協議会」の第2回総会が志津川中学校体育館を会場に、約50名余りの会員が集まり開催された。午前中には志津川西区の現地見学会も行なわれた。

及川会長の挨拶では、「昨年9月の設立総会から半年を迎えた。三部会の合同部会も開催し、『今後の町づくりをどうしたら』と議論を重ね、我が新しい町を造っていく、切り開いて行く、そういった歩みを続けている」と、話した。勝倉氏を議長として、平成24年度の事業報告・決算報告がなされた。25年度は700万円余りが予算計上され、今年の事業を進める。役員改選では、まだ半年という事で役員の再任が可決された。

会長／及川善祐(産業団体・南町) 副会長／高橋長泰(文化団体・十の一) 副会長／山本貴和(福祉関係・汐見) 副会長／佐藤伸治(建設関係・本浜) 事務局長／猪又隆弘(福祉関係・大森第二) 理事／行場博文(行政連絡員・本浜) 理事／山内一功(産業団体・五の二) 理事／工藤真弓(文化団体・五の一) 理事／小山祥子(教育関係・旭ヶ丘) 監事／中村良彦(行政区長・十の二) 監事／渡邊章治(行政区長・沼田)



被災地でのスポーツ振興



歌津グラウンドゴルフ協会及川さん表彰

5月14日夜7時から役場会議室に於いて、平成25年度「南三陸町体育協会総会」が、各16団体から16名が参加し、表彰式と総会が開催された。

はじめに高橋会長が「復興元年として土盛りの作業が進んでいる」と、まだ復旧半ばの町の現状を伝え、お祝いの言葉では佐藤教育長が、今回の歌津グラウンドゴルフ協会の2人の「体育功労賞」にあたり、グラウンドゴルフのルーツを語ってくれた。昭和57年に鳥取県で生涯スポーツの高齢者スポーツとして始まり、現在は若い人たちも榮んに参加していると伝えた。また、綱引連盟の南三陸連合の「体育勲功章」に対しては、時代の流れの中で会員が不足し、他の地区との連合チームとして輝かしい成果を修めた。その他にも、町内の子供たちの綱引き大会でも、審判や協力にも関わってくれたと話した。

「スポーツの町、南三陸町」を推奨しているスポーツ体協は被災前のようになりつつあり、今後ともスポーツの振興にご尽力をお願いしたいと述べた。

(平成25年度南三陸町体育協会表彰受賞者)

●体育功労賞

・及川武雄 (南三陸町歌津グラウンド協会) 理事10年、副会長6年。

・山内孝三 (南三陸町歌津グラウンド協会) 理事16年。

●体育勲功章(団体)

南三陸綱引連合(気仙沼市・一関市・村田町) 2013年3月の日本綱引選手権大会(4勝2敗) 2012年11月宮城県綱引選手権大会優勝

公立病院跡地のガレキは重機での破碎作業が始まった
町内にはツツジの群生が茂る